

60分でわかる旧約聖書(36) 「ゼパニヤ書」

1. はじめに

(1) ゼパニヤ書の位置づけ

①大預言書 (the Major Prophets)

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書 (the Minor Prophets)

*ホセア書からマラキ書までの12書。

③ゼパニヤ書は、捕囚期前預言書(12)のひとつである。

(2) 預言者ゼパニヤ

Zep 1:1 ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代に、クシの子ゼパニヤにあった【主】のことは。クシはゲダルヤの子、ゲダルヤはアマルヤの子、アマルヤはヒゼキヤの子である。

①ゼパニヤという名前の意味は、「【主】が隠される者」である。

②彼は、ヨシヤ王の時代にユダで活躍した預言者である(前640~609年)。

*ヒゼキヤ(善王)ーマナセーアモンーヨシヤ(善王)

*ユダには、約半世紀の悪政があった。

*ヨシヤ王の時代に、南王国(ユダ)でリバイバルが起こった。

③ゼパニヤの家系は4代前まで遡って記されている。

*クシーゲダルヤーアマルヤーヒゼキヤ

*これは珍しいことである。

④父の名が記されている預言者が数名いる。

*イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ホセア、ヨエル、ヨナ

⑤2代前まで記されているのは、ゼカリヤである。

⑥それ以外の預言者たちは、父の名が明かされていない。

⑦4代前まで記されている理由は、ヒゼキヤ王にある(2列18:1~20:20)。

*ゼパニヤは、王家の出であることを大いに活用したと思われる。

⑧同時代の預言者としては、ナホム、ハバクク、エレミヤがいる。

(3) ゼパニヤのメッセージ

①ユダは、霊的リバイバルを経験したが、宮廷の中は依然として腐敗していた。

②その時代に対する彼のメッセージのテーマは、「【主】の日」である。

*ヨエルは、「【主】の日」(大患難時代)に関する預言をした。

③ゼパニヤのメッセージの2面性(闇と光)

*世界を襲う神の裁きが来るという警告のメッセージ

*神は悔い改める者を赦し回復してくださるという希望のメッセージ

2. アウトライン

I. 闇の部分：裁きの宣言(1:2~3:7)

1. 全地に下る裁き(1:2~3)
2. ユダとエルサレムに下る裁き(1:4~2:3)
3. 周辺諸国に下る裁き(2:4~15)
4. エルサレムに下る裁き(3:1~7)

II. 光の部分：回復の預言(3:8~20)

1. 再臨(3:8)
2. 諸国の回復(3:9~10)
3. イスラエルの回復(3:11~20)

結論：ゼパニヤ書の終末論

ゼパニヤ書の内容について学ぶ。

I. 闇の部分：裁きの宣言(1:2~3:7)

1. 全地に下る裁き(1:2~3)

(1) 2節

Zep 1:2 わたしは必ず地の面から、／すべてのものを取り除く。／——【主】の御告げ——

- ①「わたしは地の面からすべてのものを一掃する」(新共同訳)
* 箒によって地の面が掃き清められるというイメージが浮かぶ。
* ノアの時代には、地は洪水によって滅ぼされた。

(2) 3節

Zep 1:3 わたしは人と獣を取り除き、／空の鳥と海の魚を取り除く。／わたしは、悪者どもをつまづかせ、／人を地の面から断ち滅ぼす。／——【主】の御告げ——

- ①一掃される順番は、人、獣、空の鳥、海の魚の順である。
* これは、天地創造の時の順番が逆になったものである(創1:20~26)。
- ②【主】の日の目的は、地上から悪を除き去ることである。
* 神は罪に対しては厳しいが、罪人に対しては優しいお方である。
* それゆえ、さまざまな方法を通して、私たちに警告を発してくださる。

2. ユダとエルサレムに下る裁き(1:4~2:3)

(1) 普遍的な裁きの次に、神の民であるユダに下る裁きが預言される。

- ①普遍的な裁き以上に厳しい裁きがユダとエルサレムの上を下る。
- ②エルサレムは神の都であり、指導者たちの背信は見逃すことができない。

(2) 裁かれる5種類の人々

- ①バアルの残りの者(ヨシヤ王の宗教改革以降も、バアル礼拝者が残っていた)
- ②偶像に仕える祭司
- ③天の万象を拝む者ども(申4:19は、天体の礼拝を禁じている)
- ④【主】に誓いを立てて礼拝をしながら、ミルコムに誓いを立てる者ども
- ⑤【主】に従うことをやめた者たち
 - *ゼパニヤはまず、神の民の宗教的な罪を指摘した。
 - *偶像礼拝は、すべての墮落の根底にある罪である。

(3) それ以外の裁かれる人々

- ①王家の者たち
- ②商人たち

(4) 【主】の日の描写

Zep 1:14 【主】の大いなる日は近い。／それは近く、非常に早く来る。／聞け。【主】の日を。勇士も激しく叫ぶ。

Zep 1:15 その日は激しい怒りの日、／苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、／やみと暗黒の日、雲と暗やみの日、

Zep 1:16 角笛とときの声の日、／城壁のある町々と高い四隅の塔が襲われる日だ。

- ①【主】の日(大患難時代)の目的は、地上から罪と罪人を一掃すること。
- ②偶像も富も、その日に彼らを救い出すことはできない。
- ③黙6:15~17には、大患難時代に起こる叫びが記されている。
- ④大患難時代が来ることを認めることは、伝道の動機になる。
- ⑤キリストを信じた者は、神の怒り(大患難時代)から解放されている。

3. 周辺諸国に下る裁き(2:4~15)

- (1) 周辺諸国が裁きを受けるとするなら、ユダは、より厳しい裁きを受ける。
 - ①ペリシテの地(イスラエルの西)
 - ②モアブとアモン(イスラエルの東)
 - ③エチオピヤ(イスラエルの南)
 - ④アッシリヤ(イスラエルの北)。

4. エルサレムに下る裁き(3:1~7)

- (1) エルサレムの4つの罪
 - ①預言者の呼びかけを聞こうともしない町

- ②預言者が語る懲らしめを受け入れようもしない町
- ③【主】に信頼しない町
- ④神に近づこうもしない町

(2) 神の民がいかにも不正を行ったとしても、【主】は正しいお方である。

①マタ 23:37 で、主イエスはエルサレムのために嘆かれた。

Mat 23:37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。

II. 光の部分：回復の預言(3:8~20)

1. 再臨(3:8)

Zep 3:8 それゆえ、わたしを待て。／——【主】の御告げ——／わたしが証人として立つ日を待て。／わたしは諸国の民を集め、／もろもろの王国をかき集めてさばき、／わたしの憤りと燃える怒りを／ことごとく彼らに注ぐ。／まことに、全地はわたしのねたみの火によって、／焼き尽くされる。

(1) 8節は、ハルマゲドンの戦いとイスラエルの回復の預言である。

- ①大患難時代の最後に、ハルマゲドンの戦いが戦われる。
- ②諸国の軍隊が結集してイスラエルを滅ぼそうとする。
- ③その時、メシアが地上に再臨され、敵は滅ぼされる。

2. 諸国の回復(3:9~10)

(1) 9節

Zep 3:9 そのとき、わたしは、／国々の民のくちびるを変えてきよくする。／彼らはみな【主】の御名によって祈り、／一つになって主に仕える。

- ①大患難時代に救われる異邦人がいる。【主】の御名を呼ぶ者は救われる。
- ②彼らは、「羊の異邦人」である。
*大患難時代においてユダヤ人を助ける異邦人たち(マタ 25:31~46)。
- ③彼らは、そのくちびるが清くされる民である。
- ④彼らは、千年王国においては一つの言語を語り、神を礼拝するようになる。

(2) 10節

Zep 3:10 クシュの川の向こうから、／わたしに願い事をする者、／わたしに散らされた者たちが／贈り物を持って来る。

- ①「わたしに散らされた者」とは、離散の地にいるユダヤ人たちのことである。

- ②その彼らが、イスラエルの地に帰還して来る。
- ③「クシュの川の向こうから」には「地の果てから」というニュアンスがある。
- ④羊の異邦人の助けにより、離散の民は、贈り物を携えて帰還して来る。

3. イスラエルの回復(3:11~20)

(1) 11節

Zep 3:11 その日には、あなたは、／わたしに逆らったすべてのしわざのために、／恥を見ることはない。／そのとき、わたしは、／あなたの中からおごり高ぶる者どもを取り去り、／あなたはわたしの聖なる山で、／二度と高ぶることはない。

- ①神は、イスラエルの中からも罪と罪人を取り去られる。
 - *イスラエルは、過去の自分の行為のゆえに恥を見るのがなくなる。
- ②神はイスラエルの中に真の信仰者を起こし、彼らを祝福される。
 - *彼らは、「イスラエルの残れる者」たちである。
- ③新生体験をしたイスラエルの民は、【主】に似た者と変えられて行く。

(2) 14~15節

Zep 3:14 シオンの娘よ。喜び歌え。／イスラエルよ。喜び叫べ。／エルサレムの娘よ。心の底から、喜び勝ち誇れ。

Zep 3:15 【主】はあなたへの宣告を取り除き、／あなたの敵を追い払われた。／イスラエルの王、【主】は、／あなたのただ中におられる。／あなたはもう、わざわいを恐れない。

- ①イスラエルの民の回復は、最終的には「約束の地への帰還」につながる。
- ②「喜び歌え」「喜び叫べ」「喜び」「勝ち誇れ」
- ③この喜びがいかに大いなるものであるを示す4つの類似の言葉
- ④主イエスを信じる私たちも、喜ぶように命じられている。

1Th 5:16 いつも喜んでいなさい。

1Th 5:17 絶えず祈りなさい。

1Th 5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたに望んでおられることです。

結論：ゼパニヤ書の終末論

1. 【主】の日(大患難時代)が襲ってくる。

- (1) 悪と悪人を一掃するための神の方法である。
- (2) 大患難時代においても、救われる異邦人がいる。
 - ①彼らは、「羊の異邦人」であり、イスラエルを助ける。
- (3) 大患難時代はイスラエルをメシアに導く神の方法である。

2. メシアが再臨される。

- (1) ハルマゲドンの戦い
- (2) イスラエルの悔い改めと回心
- (3) メシアの再臨

3. イスラエルに喜びが湧き上がる。

Zep 3:15 【主】はあなたへの宣告を取り除き、／あなたの敵を追い払われた。／イスラエルの王、【主】は、／あなたのただ中におられる。／あなたはもう、わざわいを恐れない。

Zep 3:16 その日、エルサレムはこう言われる。／シオンよ。恐れるな。氣力を失うな。

Zep 3:17 あなたの神、【主】は、あなたのただ中におられる。／救いの勇士だ。／主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、／その愛によって安らぎを与える。／主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。

- (1) イスラエルの罪が取り除かれ、神の裁きが取り去られた。
- (2) イスラエルの敵は、【主】によって滅ぼされた。
- (3) 【主】が王としてエルサレムに住み、そこから全世界を統治される。

①これと同じことを、エレミヤもまた預言している。

Jer 3:16 その日、あなたがたが国中にふえて多くなるとき、——【主】の御告げ——彼らはもう、【主】の契約の箱について何も言わず、心にも留めず、思い出しもせず、調べもせず、再び作ろうともしない。

Jer 3:17 そのとき、エルサレムは『【主】の御座』と呼ばれ、万国の民はこの御座、【主】の名のあるエルサレムに集められ、二度と彼らは悪いかたくなな心のままに歩むことはない。

- (4) イスラエルは敵を恐れる必要がなくなり、不安や恐れから解放された。
- (5) 神ご自身がイスラエルの民との交わりを喜んでくださる。

4. ゼパニヤ書の終末論から学ぶ教訓

(1) ヨハ 3:16

Joh 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(2) ゼパ 3:17

Zep 3:17 あなたの神、【主】は、あなたのただ中におられる。／救いの勇士だ。／主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、／その愛によって安らぎを与える。／主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。